

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200890		
法人名	特定非営利活動法人 スリーアール静岡		
事業所名	グループホーム いなほ		
所在地	静岡県静岡市駿河区高松一丁目12-10		
自己評価作成日	平成28年8月26日	評価結果市町村受理日	平成28年12月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=2294200890-00&amp;PrefCd=22&amp;VersioCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=2294200890-00&amp;PrefCd=22&amp;VersioCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価 調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成28年10月13日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々の生活スタイルを大切にしながら、ご自分のペースで過ごせるよう支援し、1人1人にあった個別ケアを実践しています。  
日常生活の中で、出来る事はなるべくやっていただき、その日の状況等考慮し、家事等行い、やりがいや役割をもつことで、メリハリのある生活となる様心掛けております。残存機能の維持、低下を防ぐ為にも、ご利用者様の力を信じ日々のケアに努めています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設以来13年を経過したホームは建屋の2階にあり、同じ建屋内では、法人が居宅介護支援やデイサービス事業所のほか、障害児を含む障害者の自立を目指して諸支援事業も運営している。「誰もが人間らしく、豊かに生活できる町づくりを推進」を法人理念に掲げ、高齢者や障害児を含む障害者・子供に対して地域の皆が支え合い、共に生活出来るような環境を担える支援を目指している。障害児を含む障害者やデイサービスへ通う高齢者・地域の学生・近隣の方々との交流も活発で、ホーム利用者には良い刺激が届けられている。一人ひとり異なる人生のあゆみや性格をよく理解し、個々に寄り添うキメ細かな支援が続いている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念を掲示しており、面接や会議の場において、理念の確認を行い、実践につながるよう、心掛けている。	ホームは法人理念のもとに、その関わりを行動指針として定めている。自尊心ある生活ができるケアや利用者の力と可能性を信じる支援により、本人や家族・職員は良好な関係を維持し、地域との関係維持を目指し実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	定期的に行っている運営推進会議の開催や、ボランティア、学生等の慰問の受入れ、地域で行っている「公園カフェ」にも参加している。	近隣との関係は良好である。近所の公園脇の民家を利用した憩の場で開催される「公園カフェ」には毎回招待されている。事業所内では、地域に住む家族の紹介で大道芸が披露されたり、小中学生との交流も行われたりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特定行事以外は行ってないが、「公園カフェ」に参加し、事業所の理解、交流を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、民生委員、地域包括支援センター、町内会長、利用者ご家族に参加していただき、皆様からの意見・要望等いただいている。	会議は隔月で定期的開催している。出席者は事業所の運営を見守るのに必要な各分野の有識者であり、民生委員は隣接する町内からも委員として参加している。有意義な議題が討議され、議事は家族にも報告されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の実情を積極的に伝え、運営などについて不明な点など、その都度確認したり、市からの調査依頼などにも対応している。また、シニアサポーター事業所登録も行っている。	市の関連部門とは、円滑に業務が行われている。運営上の法解釈については、その都度解決できている。市が立ち上げたシニアサポーター制度にも受入れ事業所として登録しており、1名が来訪している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修などに参加し、全職員で情報の共有をおこなっています。	ゼロ宣言のポスターを掲げ、全職員がその意義を理解しケアの実践に取り組んでいる。事業所内研修の最近事例では、仮にベッド柵を必要とする利用者が居たならばとする事例を討議し、そこに至る前のケアを学んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で情報共有を密にし、現在行っているケアや対応方法について話し合う機会を設けることで、虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加するよう、事業所から職員に促している。また、ホーム内に参考書を置き、勉強できる場を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加の呼びかけ、ご家族との積極的なコミュニケーションを図り、意見や要望等を全職員で情報共有し、反映できるよう努めている。	日常業務における家族との関りから、運営上の提案や意見は出ていない。介護上の要望も出ていないが、介護計画の説明時や普段の家族来訪時には、利用者の様子を丁寧に伝え意向の把握に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	なるべく意見の出やすいよう、カンファレンス時だけでなく、個別での話し合いの場を設け、解決し運営に反映させている。	事業所運営に関する職員意見は特に出ないが、利用者に関する問題点をカンファレンス時に各職員が話し合い、共有できるように努めている。法人としても年1回、時には随時に個人面接の場を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	役職手当、資格手当の基準を明確にし、正規職員への登用も進めている。また、職員の生活環境等を考慮し、希望休の調整も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外での勉強会、研修などに参加できるよう、情報提供し、勤務調整を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区内のグループホーム会にできるだけ参加し、意見交換などを行っている。また、協力病院主催の懇親会への参加もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にインテークを行い、職員と情報共有を行う。入居当初は様々な環境の変化から混乱してしまう場面もある為、生活環境に注意し落ち着いた環境作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との信頼関係の下、ご本人に対してより良いサービスが継続していけるので、面会時など少しの時間でも話の場を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	全職員で話し合い対応している。利用者個々に担当者を設け、外部との関係にも取り組んでもらっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活空間を共有する為、一緒に食事をしたり、買い物に出かけたりしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族からもご本人についての情報だけでなく、家族としての想いを聞くことで、絆が切れないような支援を心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に来訪できるよう、家族や親族への呼びかけを行い、また馴染みの場所への外出なども行っています。	教師歴ある利用者へ生徒が訪ね、現役時代の思い出話で賑わっている。戦前からの繁華街への買い物支援を立案した事から、事業所が利用者の馴染みの場所や人との関係が絶えないように努めている事が理解できる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれが気持ちよく過ごせるよう、利用者様の座席の配置や、共通の話題作りなど工夫しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各利用者に担当者を設け、ご本人をより深く知り得た情報をカンファレンスにおいて、全職員情報共有し、利用者本位のサービスとなるよう心掛けている。	特にカンファレンスの対象になる利用者については、全職員からアセスメントを含む諸モニタリング資料が提出されている。利用者本位の支援が、本人や家族の意向に添った支援になるよう情報共有に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各個人記録を全職員把握し、本人からの傾聴などにおいて知り得た情報もカンファレンス時に情報共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日のバイタル・食事・水分その他身体の異変等を記録し、全職員が閲覧する事で、現状の把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにおいて、介護計画の情報共有を行い、モニタリングも実施しております。介護計画を作成するにあたって、担当者はもちろんご家族や主治医にも相談しながら作成しております。	各利用者には担当者が就いている。計画更新時は、介護計画に沿った全職員の支援から得たモニタリング結果に加え、主治医や家族からの情報も取得し、計画担当者がカンファレンス結果をまとめて作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や関係書類などを利用し、カンファレンス時に職員間で情報共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今必要な支援などについては、ご家族と話をしながら柔軟に対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での行事等にもなるべく参加し、要望に応じて、買い物などにも出掛けている。また近隣の保育園にもおもしろい園児との交流も図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居してもかかりつけ医での診察を継続し、ご本人や家族と相談しながらの定期受診・往診を支援している。	入居後も全利用者が以前と同じかかりつけ医に受診している。受診の際は家族に協力を願っているが、移動から受診までをすべて職員が同行支援しているのが現状である。協力医とは緊急時対応や医療相談等で関係が良好である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康状態を訪問看護師に随時相談している。また24時間電話や場合によっては訪問対応していただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は定期的に病院を訪問しており、医療連携室の方とも十分な話し合いをしております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期における意識調査を行っており、ターミナル時には関係機関との連携をはかっております。	重度化や終末期のケアについては、入居時に本人や家族の意向を伺っている。その期に及んでは、その記録の再確認を行い、かかりつけ医や訪問看護機関の協力のもとで重度化ケアから看取りケアまで行なっている。最近の3年間で2名の看取りを経験している。	重度化や終末期ケアについては医療機関を含む関係者全員の共通認識が必要である。事業所にはケア体制の整備や指針・具体的な取り組みに加え、要項等の確認や家族との支援に伴う同意書取得が必要であると考え見直しを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファレンスにおいて、急変時の対応について訓練する場を設け、また消防署員による指導もいただいています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練は年二回行い、建屋内他事業所との合同訓練も行い、被災時には連携した避難ができるよう努めています。	火災訓練は法定訓練を行い、建屋内各事業所との合同訓練も定期的実施している。地震等の自然災害についても、被災時を想定し利用者の安全を最優先にするよう取り組んでいる。近隣住民から協力の申し出もある。	備蓄品は、更に利用者の身体的特性に応じた食品の選定や、常時投薬が必要な慢性疾患を有している利用者に対しての常備薬の保存等まで検討する事が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	周囲の状況も把握し、その場その利用者に適した声掛けをするようにしている。	尊厳を重んじ、プライバシーを損ねる事のない対応は、全職員が採用時研修で理解している。最近では、カンファレンス時に利用者個々の職歴や生活歴を把握し、その利用者に適した声掛けを話し合い実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望や思いを知る為に、利用者様の声を傾聴し、何を望んでいるのかご家族や職員間で話し合う場を設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペース、意思をしっかりと把握し対応するよう心掛けています。決して無理強いはしないようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みにあった衣類を着ていただいたり、お化粧品も自由にいただいています。また定期的な訪問美容だけに限らず、ショッピングなどにも出かけます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の状態に応じて、調理から片付けまで、出来る事は手伝っていただき、職員も利用者と一緒に食事しています。	高齢化が進み調理を手伝える利用者は少ないが、食事の前後は各自の持場を理解している。テーブル拭きや配膳・食後の食器拭きなどを行い、全員が食事時間を大切にしている。職員も感謝の気持ちを伝え、一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人の力を活かしながら食事できるよう、量や形態を工夫するよう日々観察をし、柔軟に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の状態に応じた口腔ケアを行っています。また、必要に応じて訪問歯科の利用も勧めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンや身体機能等を全職員でアセスメントする事で、少しでも排泄の自立につながるよう支援しております。また多くの利用者がトイレでの排泄ができるよう、移乗技術についても勉強しています。	要介護4や5の利用者が半数以上を占めるホームであるが、日中のオムツ使用者はいない。記録により個々の排泄パターンを把握しており、トイレ誘導する事で利用者もトイレでの排泄の快さを理解して自立に向けて努力している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や排泄パターンを把握し、飲食物の工夫もしております。また主治医と相談しながら下剤の調整を行い、トイレでの排泄を心掛けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調等に合わせ、無理強いする事のないよう入浴を促しています。	週2～3回の入浴を基本に支援している。特に買い物等で外出した日は入浴ができるように配慮している。その日によって入浴をあまり好まない利用者もいるが、声掛けのタイミングを変えたり日を変えたりする事で入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の生活リズム、その日の体調等把握し、休息できるよう声掛けを行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的に主治医、訪問看護師、家族とお話し相談している。また薬について深く知るよう薬剤師による勉強会も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションでの役割作りや、日常生活においても役割をもっていたり、メリハリのある生活となるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望にあわせ、外出の計画を立て実行したり、またご家族の協力も得ながら外出支援を行っています。	より季節感を味わうために、行事計画による花見や紅葉狩り等に家族も誘い定期的に実施している。毎日の散歩や日用品・衣類の購入や外食の個別支援も日常的に行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は施設側が行っていますが、要望、必要に応じてご本人にお持ち頂いたり、お預かりしている「お小遣い」はいつでも使えるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じて支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に室温や湿度、物音等に気を遣い、清潔を保つよう毎日清掃しています。ホーム内でも季節を感じて頂ける様、季節ごとの飾り付けを行っています。	共用空間であるホールの高い天窓からの採光は、暖かく穏やかで安らぎを感じる。大きな壁掛けの作品や置物は季節感を演出している。利用者が思い思いに日中を過ごしたり、歓談するのに相応しい場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室へは自由に出入りしていただいたり、共用空間の場では、気の合う利用者同士が話せる様、座席等の配置を工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が慣れ親しんだ物、使い慣れた物など、自由にお持ちいただいています。	クローゼットを兼ねた押入れの備えがあり、居室内は広く安全に過ごせるよう整備されている。住み慣れた家庭での生活の延長として、使い慣れた品々や家族の写真などを飾り、安心して過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	物事や場所などを理解しやすいよう、わかり易いマークなどを付け、また各設備の高さにも配慮しております。		